

4-4 東海地方の微小地震の分布(1978年5月11日～1978年11月10日) Distribution of Microearthquakes in Tokai District (May 11, 1978 - November 10, 1978)

名古屋大学理学部
School of Science, Nagoya University

前報¹⁾にひき続いて1978年5月11日より11月10日まで6ヶ月間における東海地方の微小地震活動について報告する。また、この内の主な活動域についてテレメータ観測の開始された1977年6月1日より1978年11月10日までの約17ヶ月間にわたる地震活動の時間変化についても述べる。

第1図は5月11日より8月10日までの3ヶ月間、第2図は8月11日より11月10日までの3ヶ月間における微小地震の震央を深さ別に示したものである。これ等の震源は名古屋大学理学部の地震観測テレメータ網のデータによって決定されたものである。

第3図は、御嶽山南部の群発地震の発生している地域、岐阜・滋賀県境から伊勢湾北部を経て渥美半島に至る地震活動の比較的活発な地域、および静岡県西部より駿河湾にかけての地域を特に選んでその地震活動の時間変化を示したものである。

1978年5月より11月にかけての地震活動の主な特徴を以下に述べる。

- (1) 御嶽南部の地震活動は5月中旬より活発となり、震源域も北方へ拡大した。7月には更に北方への拡がりを見せたが8月からは5月の活動域を保っている。8月には活動域南部にマグニチュード4程度の地震が発生し、これに伴う余震もあった。10月7日午前5時44分にマグニチュード5程度の地震が発生し、多くの余震を伴っている。余震域は群発活動域のおよそ南半分の地域を占め、深さ15km以浅の南北方向の面上に分布している。
- (2) 養老、柳ヶ瀬両断層付近の地震活動が従来に比較して活発となり、10月下旬より徳山の西、関ヶ原付近で活発な地震活動が見られた。
- (3) 根尾谷断層付近の活動もやや活発になっている。
- (4) 静岡県西部、駿河湾南部の地震活動は大きな変化は見られない。伊豆半島内での活動も比較的静かであった。静岡市の南側では8月頃まで地震の活動がみられなかったが、8月下旬よりやや活動的となっている。

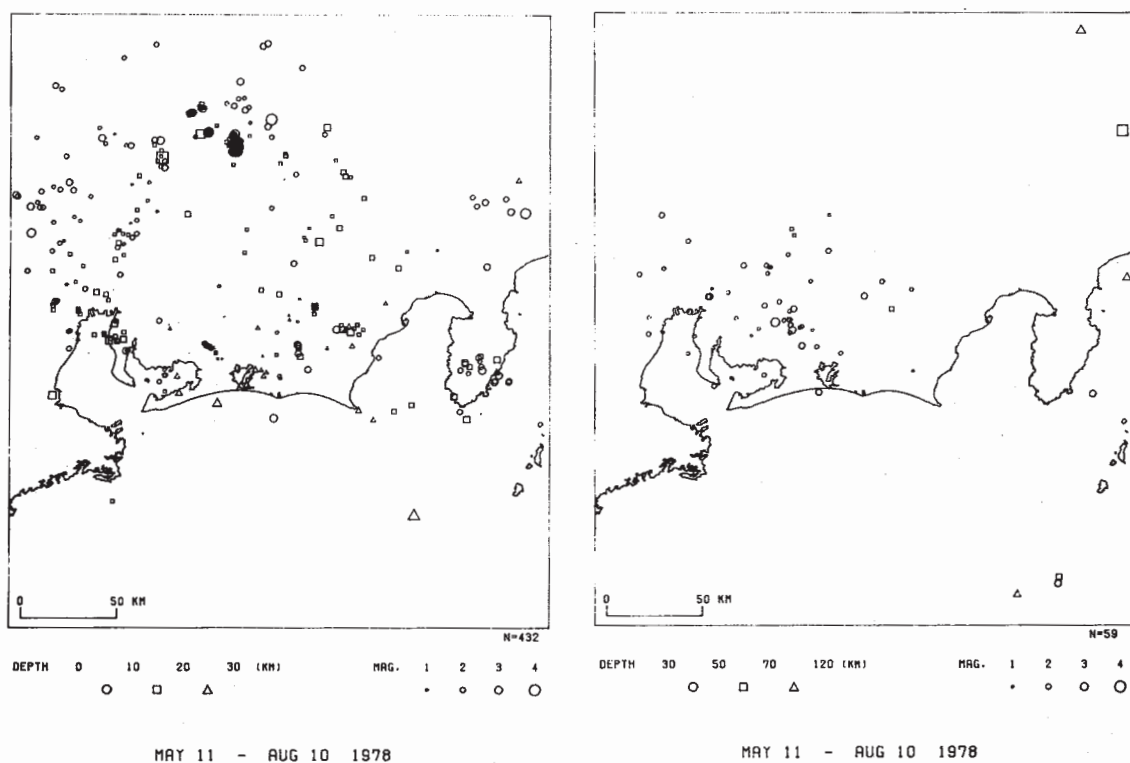
1977年6月より1978年11月までの地震活動の時間変化として次のような特徴が認められ

る。

- (1) 御嶽南部では1978年4月より観測点の密度が高くなってはいるが、それを考慮しても1978年5月からの地震活動が活発になっている。震源域が北に拡大し、南半分での活動が非常に活発になった。しかし周辺での活動に大きな変化は見られないようである。
- (2) 岐阜・滋賀県境から知多半島にかけての活動はやはり1978年に入ってから活発になったようである。知多半島北部は割合定常的に地震が発生していると思われる。
- (3) 静岡県西部および駿河湾については、1978年1月14日の伊豆大島近海地震の20日程以前より約40日間、天竜川以東における30 km以浅の地震の活動が全く無くなっていることが注目される。これに対して天竜川以西の地震活動は変化がなく、この地域の地震活動域の境界を示しているものと思われる。

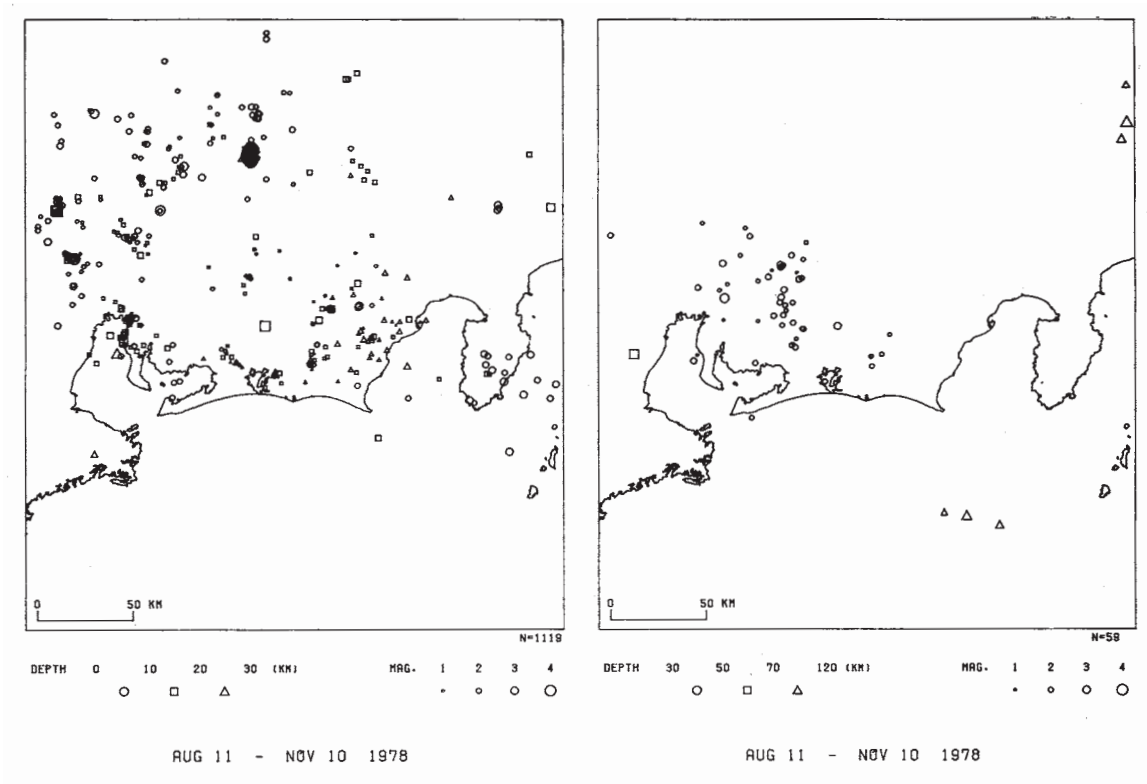
参 考 文 献

名古屋大学理学部：東海地方の微小地震の分布（1977年11月1日～1978年5月10日），
連絡会報，20（1978），124 - 125.

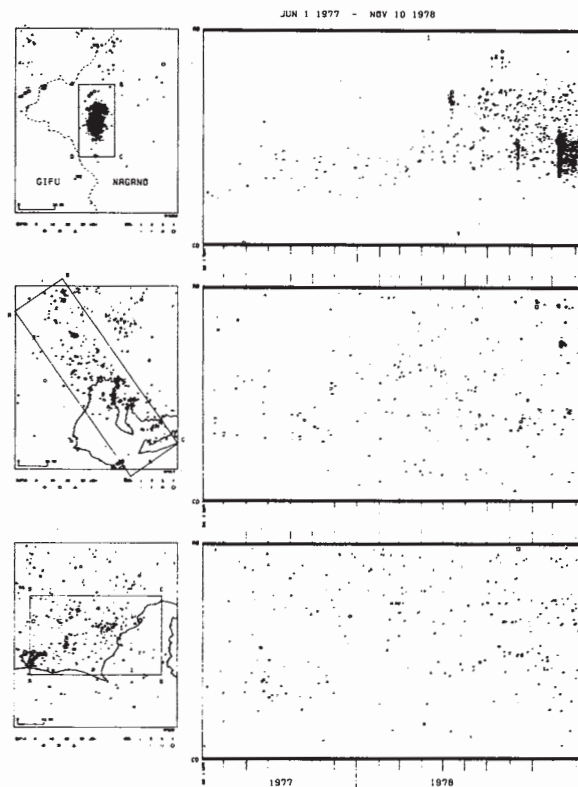


第1図 微小地震の分布（1978年5月11日 - 1978年8月10日）

Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes (May 11, 1978 - Aug. 10, 1978).



第2図 微小地震の分布 (1978年8月11日 - 1978年11月10日)
 Fig. 2 Epicenter distribution of earthquakes (Aug. 11, 1978 - Nov. 10, 1978).



第3図 微小地震の地域別時間変化
 (1977年6月1日 - 1978年11月10日)

Fig. 3 Spatial and temporal variation in seismicity (Jun. 1, 1977 - Nov. 10, 1978).